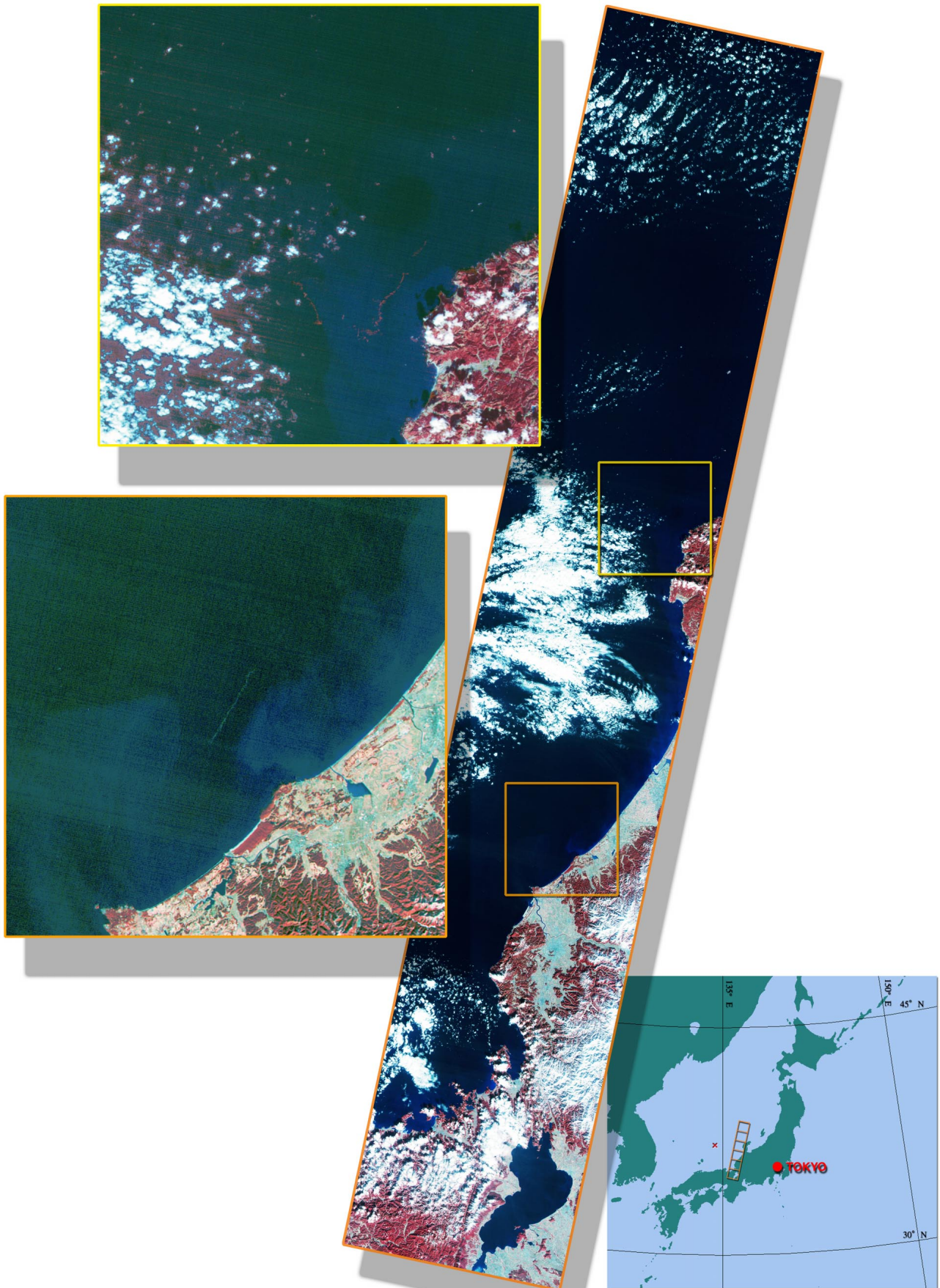


JERS-1 OPS を用いた漂流油の検出

JERS-1 Earth View 99/3



JERS-1 OPSを用いた漂流油の検出

1997年1月2日未明、ロシア・タンカー「ナホトカ号」(13,157総トン)が島根県壱岐島沖の北東約100kmの沖合いで船体の破断を起こし遭難した。タンカーより流出した積み荷の重油は、日本海を漂流し沿岸域に大きな被害を与えました。

右側の画像は、1997年1月17日にJERS-1搭載の光学センサ(OPS)が取得したデータをフォールスカラー合成し、約6シーン分をつないだ画像です。能登半島沖から若狭湾までの約75km×450kmの範囲が示されています。

これらのデータを解析した結果、ナホトカ号から流出した油が日本海を漂流している様子を検出することに成功しました。

上の画像では、幅約120m、長さ7,000mの漂流油(右側)と、幅約50m、長さ4,500mの漂流油(左側)のパターンが赤く見られます。下の画像では、幅約100m、長さ7,500mの漂流油のパターンが灰色に見られます。

このことから、OPSセンサを用いた漂流油広域監視の可能性が示されました。